

NEWSLETTER

No100719

オペレーションの技術について述べます。

与件(与えられた数値条件)に合わせてハンドを組み立て操作することが“技術”に当たります。そこに、フロップ→レイズ→フォールド(またはランオフ)→ローテーション→…の一連の流れがあります。“与件(与えられた数値条件)に合わせて”…技術において大事なのはそれです。マトリックスやバリューチェーンの数字を読む技術が求められます。

ナンバーオペレーションにおける技術とは、特に、数字を操る“操作技術”を意味します。その土台となるのが数字(数値/価値)をうまく読む“読解技術”です。そのためには数値/価値の性質、マトリックスやバリューチェーンの構造、ITV/OTV/STVの数字を識別しそれらの性質と数学的原理を徹底的に知る事です。それは単なる理論の理解とは異なります。ナンバーオペレーションでは、数学的原理(からくり)や理論の理解がそのまま実践に活かされるからです。どの数字を選び、ハンドを選択しどのように組み立てるかを決め、そして同時に、レイズ、ローテーション、ランオフの選択をそのときに計画しておきます。ハンド管理のキャッシュフローやCAF(=Current Available Funds、現時点において利用できる資金=資金余力)の管理も技術のひとつです。

ご自分が現在実行しているハンドをよくご覧ください。

ハンドは数字と記号の組み合わせです。

例えば、

[10]10C-1 @7.60 / [10]18P-1 @1.70 / [10]25C+1 @0.25

このタイプのハンドはもう十分に分かっていると思っている方も、もう一度よくご覧ください。“数字と記号の組み合わせ”について、文字通り、そのように受け止めているでしょうか。オペレーションにお金を投じているので特別な“感情”がそこに加わっていないでしょうか。

ナンバーオペレーションには、事業として、自己資本を投じているので一つ一つのオペレーションには感情が加わるのは当然です。オペレーションによってお金が動くからです。しかも、自分の大切なお金が…。

気づかれた方がいらっしゃるかもしれませんが、レポートにおいて私は日本語の「お金」という言葉をできるだけ使わないように努めてきました。「お金」という言葉を使う時は「おカネ」とひらがな/カタカナで表記しました。一方で、「マネー」(="money")や「キャッシュ」(="cash")という言葉を使いました。また、日本語の「現金」を意味する「キャッシュ」についてCASHというシンボルのもう一つの数字だと述べました。誤解してほしくないのですが、お金を軽々しく扱っているのではありません。元より、私たちナンバーオペレーションの実践者は“数”を大事に扱わなければなりません。お金は“数”(数字という“数”の文字で表される。)として認識します。

上記の“[10]10C-1 @7.60 / [10]18P-1 @1.70 / [10]25C+1 @0.25”のハンドによって確かにお金が動きます。しかし、「お金」を意識すると操作の技術に踏み込めなくなる恐れがあります。ナンバーオペレーションでは「お金」は大事ではないと言っているのではありません。むしろ、その逆です。大切な「お金」について、ナンバーオペレーションでは、意識を変える必要があると述べたいのです。『日本語の「現金」を意味する「キャッシュ」はCASHというシンボルのもう一つの数字だ。』と述べたように「お金」をハンドに含まれた“シンボル”や“数字”として扱うのです。そして“数字”に最新の注意を払いうまく扱うことです。